NPO法人加治川ネット21情報紙

水辺のひろば

No.14
2011年 10月 1日発行

加治川は子供たちの歓声でいっぱい

川のある風景
～加治川の恵み～

「川は危ない場所」「川には近づかないように」。そんなことがいわれるようになったのはいつ頃からでしょうか。

その昔、夏の遊びの代表は川遊びでした。しかし、近年、子供たちが川で遊ぶ姿はあまり見られなくなりました。そこで加治川ネット21が毎年実施しているのが、清流加治川で思う存分楽しんでもらう「水辺の大楽校」です。

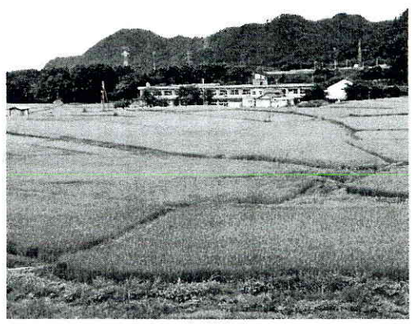
写真は今年八月に車野小学校近くの加治川で実施した水辺の大楽校の様子です。加治川には市が指定した水泳場が二カ所あります。しかし、それ以外の場所でも大人がついて遊び方を教えてあげれば、安全に遊べる場所は沢山あります。ここもそんな場所の一つです。

今回の水辺の大楽校には、福島県南相馬市から新発田市に避難している二家族も参加し、川の生物観察、ライフジャケットを着用した川下りや対岸でのカブトムシ探しに歓声を上げていました。

震災以前から、南相馬市では川で泳ぐということはなく、水泳はプールが定番。自然の中で川と親しむ今回の体験は、新しいふるさと「新発田市」の、思い出の一ページになったようです。

こんな場所発見
赤谷「ミント」から見渡す風景

綺麗な景色というのは、丹念に人の手が入っています。山里の美しい風景は、人々が自然の営みのなかで作り上げてきたものです。村を流れる川も、棚田も美しい。



心安らぐ田園風景

私たちは技術の進歩によって、川や湖を埋め立て、コンクリートで固め、合理的な暮らしを手に入れてきました。それはそれで、便利な空間です。しかし、それらの空間が美しいかというと、どうなのでしょうか。

手塩にかけて時間を紡いできた風景は美しい。でも、そういう風景は、社会構造の変化と共に姿を消しつつあります。

私たちは、「懐かしい」「やすらぐ」といった気持ちが起こる風景に惹かれます。それは、私たちが戦後追い求めてきた豊かさとは真逆にあるものです。

赤谷に「ミント」という喫茶店があります。ここの御主人は元サラリーマン。まちの生活に見切りをつけて、赤谷の棚田の見える高台で喫茶店を営み始めました。それからすでに20年近くになるそうです。周りの風景を損なわない設えで、落ち着いた雰囲気の店です。

この喫茶店には、遠くからわざわざ訪ねて来る人もいます。ここで出される水出しコーヒーの味は格別ですが、それ以上に、この喫茶店で眼下に広がる風景は、宝ものです。せせらぎがあり、ホタルが舞う、かつてどこでも見られた風景、そして今は少なくなった風景が、ここに残っています。

おいでください
小学生の環境学習発表会

環境学習発表会
【とき】平成23年11月12日(土)
午後1時30分～3時30分
【ところ】新発田市生涯学習センター

環境学習パネル展
【とき】平成23年11月10日～11月20日
【ところ】イオン新発田ショッピングセンター

寄稿 殿様街道てくてく旅 ⑧
街道沿い三代の歴史

この日の宿泊地は福島県猪苗代湖の南、郡山市三代(みよ)。そこで「史談会」の方々と談笑。史談会で行っている活動や三代の歴史について詳しく聞く。史談会は旧湖南町全町で組織されているらしく、三代では3人でやっている。今回は2名が参加してくれた。

三代の大通りが広いのは昔78戸ある住宅のうち32戸を焼く大火があり、延焼防止のために皆で家屋敷を後ろにさげた（セットバック）ため。火災を免れたところはセットバックしなかったため、途中から道幅が狭くなっている。その後も大火に見舞われたが、広い道路のおかげで道路向かいは延焼を免れたとのこと。明治時代、三代周辺の5カ町村の山林が国有とされたが、農聖と呼ばれた石川理紀之助氏に依頼して、国を相手に裁判をし、10年かかったものの2000町歩の山林を取り戻したとのこと。裁判中は住民が縄をなって売り、金銭面の支援をしたこと、氏の功績に報いる為、立派な記念碑を建立したことなどの話を聞いた。

三代地区の屋号の看板は史談会のメンバーの手作りで約40軒分作ったそうだ。

昔は白河街道として栄え、東山形屋には80本のかさを置いてあったが、雨になるとすべてなくなったくらい繁盛していた。しかし磐越西線が開通してからは、物流も人の流れも変わってしまい、すっかり寂れてしまったこと。しかし、栃木方面から会津方面へは最短のルートである為、難所の峠道がトンネルにより便利になってからは夜間の大型車の通行が増えて困っているとのこと。

（次号へ続く）

《編集後記》

▼先日、鳥海山（秋田県）の麓にあるブナ林を散策しました。ブナの木は通常真っ直ぐ上に伸びるのですが、ここのブナはほとんどが奇形樹。みんな同じように根元から1.5mくらいで一旦曲がってから空に向かって高く伸びているのです。積雪か、噴火の影響か、しばし、自然の驚異に浸っていましたが、実はこの奇形の原因が人間の手による伐採と聞いて「なあんだ」。

ここは雪が深いため、冬は人が入りませんが、春になって雪が溶け始め、締まって硬くなった頃、炭焼きが入山し、雪から出ている木を切って炭を焼く。ブナ炭は良質ではないものの短時間で炭にできるので、多く使われたそうです。雪の中に残された幹は、一旦は曲がるもののそこから新たな芽を出し、枝となり上へと伸びるのです。

炭の需要が減り、50年程前に炭焼きは姿を消したため、現在のブナはのびのびと上を目指して伸びるのみ。自然と人間との戦い（?）を見るような気がしました。

NPO法人加治川ネット21の紹介

設立	1996年11月。2003年5月法人化
活動目的	21世紀を生きる子供たちによい環境（自然、伝統、文化）を残し、伝えたい。
主な活動	水と親しむ水辺の大楽校、生き物調査、小学校環境学習支援、川辺や町並み散策、手前みそ作り、シンポジウム開催
受賞歴	環境大臣表彰、新潟県環境賞、「日本の水をきれいにする会」会長表彰ほか
年会費	法人会員10,000円、個人会員2,000円

発行：NPO法人 加治川ネット21　事務局所在地：新発田市小戸886-1　電話：(0254)31-4111　ホームページアドレス：http://www.inet-shibata.or.jp/~kjn21/

イバラトミヨ生息地
～久保地区での活動～

＝春のいきもの観察会＝
清水川（久保の用水路）

「レッドデータブックにいがた」に「新発田市の生息地は消滅した」と紹介されていたイバラトミヨですが、２００２年に新発田市六日町の天辻川で再発見され、さらに隣接する太斎、久保地域でも生息が確認されました。特に久保地区の清水川は湧水が豊富な土水路が残されていることから、イバラトミヨをはじめ、トノサマガエルやホトケドジョウなど、絶滅が心配される生物が豊富です。

当会では、毎年この地域での「春のいきもの観察会」を開催しています。

ところが、その清水川も周辺の水田でほ場整備が始まるにつれて湧水量が減少し、昨年、水源に隣接する市道の工事が始まると、ほとんど湧水がわかない状態になりました。その影響で、かつてはイバラトミヨをはじめ29種類が確認されていた水生生物が、今年は 10種類にまで減少してしまいました。

この状況を改善するために、当会では土地改良区や地域の方々と協力し、隣接する用水路から水を引き入れたり、※「こしじ水と緑の会」から助成を受けて、水路の保全と生物の多様性に有効な粗朶による護岸整備をしたりしています。しかし、「豊かな水辺」の復活には湧水が不可欠。今後、湧水復活に向けた取組みが必要と考えています。

※朝日酒造が主催する財団法人で、環境活動を行う団体や個人を助成している。

昨年に引き続き実施した護岸工事

＝水生生物の居場所づくり＝
専門家の指導で護岸補修

イバラトミヨが生息する新発田市久保地区の水路で、6月4日(土)に護岸補修工事を実施しました。

この工事は、護岸の崩れ防止として地元の要望を受け、昨年に続いて行うもの。昨年は延長５ｍの両岸を2つの異なる工法で試験施工しましたが、今年はその上流部10ｍの延長です。当会の呼びかけに地元の方をはじめ、環境保全太斉地区圃場整備事業推進協議会、水土里ネット豊浦郷、国や県の関係者など十余名が参加しました。

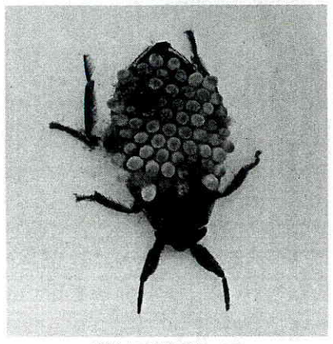
施工方法は、去年の試験施工の結果から粗朶(そだ)組工法に決め、鋼管杭の打ち込みと併行作業として水路の泥上げも実施しました。杭を直列に据えるために糸を張り、それに沿って鋼管杭を50㎝間隔で打ち込んでいきます。足場が悪いのと障害物などで意外と手こずり、1時間以上かけてようやく杭の打ち込みが終わりました。

鋼管に木枝を巻きつけていく粗朶組は、専門家の手ほどきを受けながら、これも1時間くらいかけて組み上げました。その後は、土の流失防止マットを裏側に敷きこみ、裏込土を締め固めて平らにして完成です。何とか半日で終えることができました。

水路上流部からの湧水が止まったことで、イバラトミヨの激減が心配されます。今回の粗朶組の水路がイバラトミヨやその他の生き物への環境改善に少しでも繋がればと思います。

新発田の自然
＝田んぼのいきもの＝
オオコオイムシ

新発田の水辺には、雄が子育てをするユニークな「コオイムシ」という昆虫がいます。名前のとおり、雌が雄の背中に産卵し、卵を背負うことからついた名前です。


背中に卵を背負って

新潟県にはコオイムシとオオコオイムシが生息していますが、私たちの調査で確認されるのは、ほとんどオオコオイムシです。残念ながら、外見ではほとんど区別できません。どちらもカメムシ目コオイムシ科で、オタマジャクシやモノアラガイなどの小動物の体液を体外消化し、溶けた肉を吸っています。餌の豊富な豊かな水辺にしか生息できないため、「レッドデータブックにいがた」ではコオイムシが準絶滅危惧種に分類されています。

分布は、日本、中国、朝鮮半島の水田などの浅い水域で、どちらかというとオオコオイムシは山間部に多いようです。産卵期は5～7月で、夏以降、親の生息地と同じ場所で、羽のない小さな幼生がみられます。オオコオイムシで 90個程度の卵を2週間～4週間ほど背負いますが、その間、雄は卵の呼吸を助けるために甲羅干しをしながら卵を守ります。

NPO法人
加治川ネット２１ 今後の活動

10月 9日(日)	きのこ観察会
16日(日)	エコカーニバル
23日(日)	ボランティアフェスティバル
11月10日(木)～11月20日(日)	環境学習パネル展
12日(土)	小学生による環境学習発表会

※詳細は事務局にお問い合わせください。

滝谷森林公園で サバイバル体験
～イオン・チアーズクラブで～

7月31日(日)、イオンチアーズクラブが、今年も当会の企画運営で「水辺の大楽校」を開催し、下越地区内から5店舗の総勢60名の子どもたちが参加しました。会場は滝谷森林公園です。

今回のプログラムの目玉は「サバメシ」作り。サバメシとは、今年起こった東日本大震災の経験から、いざというときのために身近な生活廃品でご飯を炊いてみようという、名づけて「サバメシ」＝サバイバル飯です。すなわち、空き缶を鍋とカマドにしてご飯を炊いてみようという試みです。

仕掛けは、３５０ccのアルミの空き缶を2つ組み合わせ、一つの缶はご飯を炊く鍋に、もう一つの缶はカマドにし、燃料は、牛乳パックを短冊に刻んで使います。

缶に火入口と空気口を開けたり、缶の蓋を切り取ったりするのは、結構大変な作業でしたが、加工した缶に米と水を合わせて炊事場へ。下準備ができたら火入れです。風で炎があおられたり立ち消えしたり、燃料の紙片を入れ過ぎたりして、安定した火加減にするのがなかなか難しく、煙も目に沁みます。低学年の子供たちが多いので、火を使うことに不慣れで、缶を覗き込んでは帽子のツバで缶を押し倒し、炊事場は大騒ぎです。しかし、30分後にはどうにか炊き上がりました。

サバメシ作りは初めての試みでしたが、こんな簡単な仕掛けで、御飯が炊けることにびっくりしていました。子どもたちにとって貴重な体験だったはず。これでいざという時もきっと大丈夫？…たぶん。

空き缶で「サバメシ」に挑戦

宝物みーつけた
竹俣小学校木造校舎

新発田市川東地区には二つの木造校舎の小学校があります。その一つ、が竹俣小学校です。現在の校舎は建て直されたものですが、校舎が老朽化して建て替えるときに、地域を挙げて木造校舎建築を陳情し、時の市長も小規模校の理想の形として木造校舎を推進し、現在の校舎が完成しました。それから15年、竹俣小学校は児童数が減り、新発田市の学校統廃合計画では、2年後には廃校となる予定です。

「廃校ですか？竹俣小学校はまだまだ現役の小学校だから閉校と呼ぶ方がいいでしょう。」と元教師が言いました。確かに廃校というと賞味期限を過ぎた印象が漂います。

7年前、竹俣小学校に新潟「りゅーとぴあ」のアプリコット(ミュージカル)の子どもたちが来て、交流公演を行いました。その際に子どもたちは木造校舎を見て歓声を上げていたそうです。魅力は中にいては気付かないものなのかもしれません。

理想の形で造った木造校舎ですが、時代の趨勢のままに今日を迎えています。閉校後、この校舎がどうなるのかはまだ決まっていないようですが、この「宝もの」の価値を十分にいかせるような使い方をしてほしいものです。

木の温もりが優しい木造校舎

くらしの方言 その8
Yes！No！んだ！

同じような言葉でも言い回しで意味が違います。

父と息子が、雪の季節を前に相談事をしています・・・

父 「今年も暖冬みでだども、来週あたりには雪囲いしねまねなぁ。」

息子「んだっ！」

父 「植木の雪吊りもしねまねなぁ。」

息子「んだ、んだっ！」

父 「今年は、おめぇも手伝えやなぁ。」

息子「ん～だっ！」

※「んだ」＝同意を表す返事につかわれます。
「そうんだ」の変化
「ん～だ」になると嫌だの意味もあります。
「おら、いゃん～ださ！」
の変化でしょうか。

環境豆知識
ホットスポット

熱い場所という意から転じて、注目を集める場所や地点ということで、いろいろな場面で使用されている言葉です。

社会面では、紛争地域や危険な場所という意味であり、地学では火山活動が活発な場所で地殻からマグマが湧きあがる場所を指します。

環境面では、生物多様性が高いにもかかわらず破壊の危機に瀕している地域をいい、近年英国の生物学者が提唱しています。

今は、福島第一原子力発電所の爆発の影響で、放射能汚染の値が周辺と比較して著しく高い場所を指すことで、よく耳にする言葉にもなっています。通常、汚染度合いは、汚染源の距離に応じて減じていくのに、離れていても特定の場所で高い汚染数値を示す場所がいくつか存在します。

大気中の放射性物質が、そのときの気象条件や地形の影響を受けて滞留したものと考えられ、放射線測定の方法や測る人の熟練度によっても数値は大きく変化します。

NPO法人 加治川ネット21団体会員紹介（順不同）

(株)日園、曽根建(株)、(有)みずほ園芸、(株)アートグラフィック新潟、大進電業(株)、(有)ひかり電工、ミトモ電設(株)、ベック(有)、北越緑化(株)、新発田ガス(株)、菊水酒造(株)、NPO法人 赤とんぼ、(株)馬場工務店、(株)静岡グリーンサービス、聖光園(有)、エヌシーイー(株)、(株)花安 新発田斎場、新潟グリーンテック(株)、(有)高橋基礎屋、昭栄印刷(株)、若月建設(株)、川東土地改良区、豊浦郷土地改良区、大豊電気(株)